

# 相互行為分析の誕生

東京工科大学 山崎晶子

## 1 目的：相互行為分析の誕生

相互行為を行う時に人間は、言葉やその音韻、視線や指さしなどの身体的行為、また道具や人工物等のモノそして環境等の「マルチモーダルな資源」(Stivers and Sidnell 2005)を用いている。相互行為分析は、日常的場面や制度的場面においてこのマルチモーダルな資源がいかに相互行為を作り上げる時に用いられているかを分析するものである。

この報告の目的は、二つある。1)相互行為分析の誕生の経緯を明らかにすること。相互行為分析のパイオニアであるチャールズ・グッドウィンとマージョリー・ハーネス・グッドウィンはアーヴィン・ゴッフマンの相互行為への関心を受け継ぎ、日常的な相互行為の場面のビデオ撮影を行った。行為の継起性に着目して相互行為の解明を行った。その研究は相互行為分析（マルチモーダル分析やマルチモーダルインタラクション分析等と呼ばれることも多い）と呼ばれる。この誕生の経緯をパロアルトグループがフィルムを用いたことから説き起こして説明をする。2)位置取りを説明すること。グッドウィンたちは相互行為における位置取り(alignment)に関心を寄せ続けている(Goodwin 1990)。全米日系人博物館における日系アメリカ人と日本人の相互行為の分析を、位置取りを中心にして明らかにする。

## 2 相互行為分析と位置取り

人は「何か」あるいは「誰か」に対して何らか（否定や肯定等）の立場を取る、そして相互行為において発話や行為によってその位置取り(alignment)を行う。また他者に対しても何らかの位置取りを期待する。ここで分析するデータは、ロサンジェルスにある全米日系人博物館でビデオ撮影をしたバイリンガルではあるが主には英語話者である日系人のガイドと日本語話者であるアメリカ在住の日系人の観客及びその姉妹である日本人の観客の会話である。ガイドの両親は日本のどこから来たかを尋ねた後、日本から訪問した女性は自身の出身地（「広島」）と告げる。この場面でマルチモーダルな資源（主に言葉と身体的行為）を用いて、どのように位置取りをするかを明らかにする。

## 3 結論

本発表では、マルチモーダルな人間の相互行為を分析する相互行為分析の誕生を説明し、位置取りなどのその中心的な概念から相互行為分析の一端を明らかにする。

文献

Goodwin, Marjorie Harness. 1990. *He-Said-She-Said: Talk as Social Organization among Black Children*.

Bloomington: Indiana University Press.

Stivers, T, and J Sidnell. 2005. "Introduction: Multimodal Interaction." *Semiotica* 156 (1/4): 1–20.

doi:0.1515/semi.2005.2005.156.1.